

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1471903052
法人名	有限会社Cocci
事業所名	グループホーム ちゃばしら
訪問調査日	平成28年12月12日
評価確定日	平成29年3月29日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 28 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471903052	事業の開始年月日	平成18年3月1日	
		指定年月日	平成18年3月1日	
法人名	有限会社Cocci			
事業所名	グループホーム ちゃばしら			
所在地	(238-0043) 神奈川県横須賀市坂本町5-5-18			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	7名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成28年11月3日	評価結果 市町村受理日	平成29年3月31日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員一人一人が利用者の身体の残存能力維持、認知症の進行緩和を意識し、リハビリ等を目的としたレクレーションを積極的に行っている。気候が良い時は健康保持、体力増進の為に戸外への散歩、または敷地周辺での外気浴をするよう心がけている。また、地域のお祭りや、町内会の日帰りバスツアーへ参加をする等、地域交流も積極的に行っている。開所以来、職員の定着率が高い。現在勤務している職員の内、勤続年数3年以上の者が全体の8割を占めている。1ユニット、定員7名の小規模ホームで、毎日和気藹々と過ごしながらも、目の行き届いた介護を実践している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成28年12月12日	評価機関 評価決定日	平成29年3月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

①グループホームちゃばしらは、有限会社Cocciの経営です。事業所の名前の由来は、イタリア語の「てんとう虫」を意味し、古来より幸せを呼び込む虫と言われていました。利用者が住み慣れた地域の中で、残された能力を維持し、家庭的な環境の中で安心して暮らしていけるよう、との思いを込めてつけられました。定員は7名と少人数ですが、ここ1,2年の間に、看取りや特別養護老人ホーム等への入所が決まるなどで利用者の入れ替わりもあり、現在は5名の利用者が職員と共に、小規模ならではの和気あいあいとした雰囲気の中で暮らしています。立地は京浜急行「汐入駅」からバスで10分「坂本」で下車し徒歩3分程の道路に面した緑色の建物です。

②理念は「地域に根差したホームにする」と掲げ、自治会に加入し、地域のお祭りの参加や、町内会の「日帰りバスツアー」は恒例の行事になっており、地域の方に温かく受け入れて頂きながら利用者も職員も一緒に参加しています。近隣の店舗で利用者と共買い物をしたり、日頃の散歩でも交流を図るなど、地域との交流に力を入れています。

③事業所としては、職員のキャリアアップの為に、グループホーム連絡協議会等の外部の研修に積極的に参加を促し、帰所後に会議の中でフィードバックして、情報の共有を行っています。また、内部研修計画も進めており、サービスの質の向上に取り組んでいます。利用者の重度化が進む中でも、家族の負担を考慮し医療連携加算や看取り加算を取らないなど、小規模ならではの心のこもった介護に取り組んでいます。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム ちゃばしら
ユニット名	

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根ざしたホームにする、という理念の下、地域のお祭りや日帰りバスツアーへ参加する等して、積極的に地域交流をしている。	地域との交流を積極的に図り、地域に根差したホームにする等、5項目からなる理念を掲げ、玄関に掲示しています。会議や日頃の業務の中で話し、共有して実践に繋げています。来年度は職員の年間目標を立てて、やり甲斐を持ってもらい、人事考課にも繋げられるよう計画しています。	今後の継続	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ加入し、地域行事への参加などを積極的に行っている。また、日常の散歩の中でも地域の方との交流を図っている。地域の方が広告のゴミ入れを作ってホームに届けて下さる。	町内会に加入し、地域のお祭りや町内会のバスツアーなどに積極的に参加し、地域との繋がりを大切にしています。利用者を連れて買い物がてら商店や近隣を回り、顔を覚えてもらうこともしています。個人的に八百屋で買い物をする利用者もいます。毎年中学生の福祉体験の受け入れを行っています。	今後の継続	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会からの依頼で、認知症について、また、グループホームでの介護についての講演を行ったことがある。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価についてだけでなく、介護保険法改定等についても説明をする等、ホームがどのような状況下にあるか情報提供している。また、会議で出た意見は積極的にホーム運営に導入している。	運営推進会議は2ヶ月に1回、民生委員2名、家族、利用者、管理者、職員の参加で開催しています。横須賀市からは、年1回職員の参加があります。事業所の状況報告や法改正の話、地域行事の情報をいただき、いただいた意見やアドバイスはサービスの向上に活かしています。	今後の継続	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは報告・連絡・相談を密にし、協力関係を築く取り組みを積極的に行っている。	市町村担当者とは運営推進会議に年1回の参加がある他、報告や連絡等は日頃より密に取り合っています。横須賀市のグループホーム連絡協議会の研修や、感染症・虐待・接遇等の市の研修にも積極的に参加しています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の心身の状態の安定を図る為にも、身体拘束は行わないという理念の下、日常のケアにあたっている。また高齢者虐待について各職員が自己チェックを実施している。玄関については施錠はせず、自由に入出入り出来るようにしている。夏期に於いては玄関の戸を開放したままにしている。	身体拘束については運営規定に明記し、身体拘束は行わないという理念の下、日常のケアに努めています。日頃から、何が拘束に繋がるかの話し合いを職員間で共有しています。離設をする利用者は、近隣に声掛けをし、協力をお願いしています。玄関の施錠については常に話し合いの場を設けています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の研修に参加した者が中心になり事業所内研修を行っている。また、高齢者虐待について自己チェックを実施し、自身の介護について見つめ直している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が研修に参加した後、事業所内研修を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談、契約時には十分な説明を行っているが、不明な点があった場合はいつでも連絡を下さいといったように話をするよう心がけている。相談窓口は随時相談可能にしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、ご家族からの意見、要望に関しては積極的に受け入れ、可能な限り事業の運営に反映させている。月に一度ご家族にホームでの利用者の様子をまとめた物、またはホームの近況等について記載した物を送付している。	利用者・家族からの意見や要望に関しては、積極的に受け入れています。家族からのリハビリを望む声や、外になるべく出かけてほしいなどの意見は、ケアプランに盛り込み、可能な限り実現に向けて反映させています。請求書と共に利用者一人ひとりの近況を主任が書き、送付して日頃の生活の様子を伝えています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホームをよりよくする為に、職員からの意見は可能な限り積極的に導入するよう管理職は心掛けている。管理職と職員の距離がいい意味で近く、そのことから職員の定着率が非常に高い。	職員とは、日頃からよく話し合いを持っており、事業所の実情を理解した上で意見や工夫を出してくれるので、運営に反映させています。年度末以外にも必要に応じて、個人面談の機会を設け、職員が働きやすい環境の整備に努めています。	今後の継続	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々の努力、実績、能力を把握し、各自が向上心を持って働けるような職場環境の整備に努めている。新規に教育訓練規定、キャリアパス、人事考課規定を作成した。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員個々のケアの実際と力量を把握し、各々に適した研修参加を働きかける等心掛けている。今年度新たに教育訓練規定を作成し、今後積極的に教育訓練等を実施する体制を整えた。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	介護主任を中心に、グループホーム協議会の研修等に積極的に参加している。研修に参加することで、ケアへの知識、技術が向上するだけでなく、同業者同士のネットワークも確立される。代表者は協議会以外にも、グループホーム経営者系のネットワーク会議にも積極的に参加をしている。			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始の段階で困っていることなどの相談を受け、要望等に関しては積極的に受け入れるように心掛けている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者同様、相談等には親身に対応している。相談窓口は基本24時間、365日常に対応出切るようになってきている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネがアセスメント、サービス計画表を作成するにあたり、どのようなサービスが一人一人の利用者に必要か見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	小規模ホームであることを活かし、職員、利用者皆が家族と思えるような関係作りを進めると共に、目の行き届いたケアを提供している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1回利用者の状況を書面にて報告している。(家族への報告・相談・連絡を密にするよう心がけている。) また毎年夏、またはクリスマス期等にご家族をホームに招き食事会を開いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日中生活の中で親族、または馴染みの人へ手紙を書く等している。また馴染みの人がホームに定期的に面会にくる利用者もいる。利用者によっては馴染みの人と外出をする場合もある。外出は基本自由にして頂いている。	親戚や友人が、定期的に面会に来る利用者もあり、部屋で話をしたり、出前を取って部屋で食事を食べてもらうこともあります。墓参りに行ったり、馴染みの人と外食をしに行くなど、関係が途切れないよう、支援に努めています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	小規模ホームであることを活かし、皆が家族と思えるような関係作りを心掛けている。利用者内でも色々と人間関係等の問題もあるが、そこは職員が間に入り調整をしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も賀状を送るなどしている。また、相談等があれが応じている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者一人一人のそれまでの人生を反映出切るような生活を心掛けている。利用者一人一人の希望も可能な限り実現できるよう努めている。	入居時のアセスメントシートを基本とし、訪問時の家族との会話や、日頃の本人との会話の中から、情報や希望を把握しています。一人ひとりの希望は、可能な限り実現に向けて検討しています。得られた内容は、個人記録に残し、職員間で情報を共有しています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネのアセスメントを元に、利用者のそれまでの人生（生活歴）、サービス利用の経過について把握することに努め、ホーム内での日中生活に活かすよう心掛けている。家事が得意な方については、職員と一緒に調理も行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	会議だけでなく、日常の中でも管理職が中心になって必要に応じて話し合いをし、利用者一人一人の状態把握に努めている。場合により、家族等に情報提供を求めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネが中心になって、利用者が日々快適に過ごせるよう利用者、または家族と面談の場を設け、その中から出た意見等を反映し、提供するサービスの向上を図っている。	ケアマネージャ・主任が中心となって、月1回のスタッフ会議で話し合い、利用者が日々快適に過ごせるよう、意見やアイデアを出し合い、現状に即した介護計画を作成しています。家族の意見も取り入れ、了承を得ています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや、サービス向上の為にプラスになる情報については、サービス提供記録表への記入だけでなく、職員間の連絡ノートへの記入、または口頭での伝達等行い、皆で情報を共有、把握出来る様努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日課、またはサービス計画に固執せず、いい意味で臨機応変に対応できるケアを心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者一人一人の暮らしを支えている地域資源への把握に努め、一人一人が快適な日常を送ることが出来るよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関の受診については、ホームの提携医療機関に拘ってはならず、利用者本人、または家族の希望に沿った医療機関を受診するよう努めている。受診する医療機関については、入居相談時に行っている。	かかりつけ医の受診については、事業所の提携医に拘らず、家族・本人の希望を大切にしています。現在は全員が近隣の内科医を受診しています。メンタルクリニックから月1回の往診、歯科は定期検診と必要に応じて往診があります。家族の希望で、整形外科のリハビリに通っている利用者もいます。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護職員はなし。訪問看護利用時には看護師との連絡を密にし、利用者の体調管理に努めた。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には面会に足を運ぶ等して、入院中の利用者の状態把握、医療機関からの情報収集に努めている。また、入院時には必要に応じて医療機関にサマリーを提出することで、医療機関により早く利用者の状態を把握してもらえるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態に応じ、重度化、終末期の話を本人又は家族としている。その際、ホームで出来ることと、出来ないこと等について説明をし、本人・家族が納得した上で、本人・家族の希望に沿ったケアをするよう努めている。	家族の負担を考慮し、看取り加算は取っていませんが、看取りは行っています。利用者の状態の変化に応じて、「ターミナル希望書」を取り交わしています。その際、事業所で出来る事・出来ない事等について説明をし、納得して頂いたうえで家族の意向に沿った支援を心がけています。医師の助言も仰ぎながら、ターミナルケアに臨んでいます。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時、事故発生時のマニュアルを作成し、職員にはそれを周知するようしている。また救急法の研修へ参加した職員が中心になってホーム内で研修を行っている。また職員会議の中でも緊急時の対応について適時職員間で確認をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時等の対応マニュアルを作成している。防災計画にのっとり、避難訓練等を定期的実施し、近隣の消防署に報告書を提出している。消火器、備蓄等の置き場所、防災設備の使用方法等については常に職員一人一人が確認するよう心がけている。また、運営推進会議にて地域の方に災害時の協力体制について依頼をしている。	災害時の対応マニュアルを作成しています。防災計画に則り、年3～4回、利用者も参加して総合的な避難訓練を実施し、消防署に報告書を提出しています。また、運営推進会議にて地域の方と互助体制についての話し合いもしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	運営方針で利用者への介護は同視線で、また畏敬の念を持つよう提示し、職員一人一人がそのことを念頭において介護にあたっている。利用者への声かけは周りの状況を見ながら慎重に行うようにしている。またプライバシー保護の為に、リビング内で個人情報の話はしないよう努めている。	プライバシー保護の為に、職員同士の会話や引き継ぎ時等に、個人情報が入らないように配慮しています。市主催のコミュニケーション研修に職員が毎年順番に参加しています。入室の際にはノックをし、声掛けをしてから入っています。トイレ誘導等の利用者への声掛けについても、羞恥心に配慮しながら対応に努めています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人一人の希望を尊重し、日常生活を快適に送れるような環境づくりに努めている。	/		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人がホームの主役という理念の元、一人一人の生活リズムを大切にサービス提供を心掛けている。一人一人の希望は可能な限り尊重している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者一人一人がホームの主役という理念の元、一人一人の生活リズムを大切にサービス提供を心掛けている。一人一人の希望は可能な限り尊重している。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人一人が各々の能力に応じて、調理、配膳等準備、食器洗浄、食器拭き等片付けを職員と一緒にやっている。食事のメニューはその都度決める為、食べたいものの希望を聞いたり、献立を一緒に考えたりもしている。	食材は管理者が定期的買いに行き、メニューはその都度決めて、利用者と一緒に調理しています。足りない物は近くの八百屋に買いに行く等、旬の物を取り入れるよう考慮しています。個人対応・もしくは順番に車で外食に行ったり、敬老の日にお寿司の出前をするなどして、食事を楽しむ支援をしています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重、既往症等に応じ、食事制限が必要な場合は、食事量調整を行う。また水分摂取量に於いては記録をし、状況把握に努めている。夏期には水分摂取量に十分注意をしている。水分補給補助用としてお茶またはポカリスエット等の寒天を、常時使用している。夏期はおやつをゼリー類中心にする等心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。自立出来ている利用者も最後に職員が確認をし、口腔内の清潔に努めている。定期的に提携歯科の検診を受診している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の意思伝達が困難な利用者、オムツ利用の利用者、または身体的に重度の利用者も定時、または必要に応じトイレへ誘導をし、トイレで排泄をする支援をしている。	排泄チェック表を基に、定時または様子を見てトイレへ誘導し、トイレでの排泄に繋がるよう支援しています。重度の方でも必要に応じてトイレ誘導しています。夜間は時間を決めて声掛けをし、トイレへの誘導をしています。本人の希望により部屋にポータブルトイレを置いている方もいます。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が身体に及ぼす影響については十分に理解し、飲食物の工夫、水分摂取量把握、マッサージ、また日常生活の中で運動をするなど心掛けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	以前は一人一人が毎日入浴していたが、利用者の体力等を配慮し、現在は隔日入浴を基本としているが、利用者一人一人のその時の状況に応じた対応をしている。	毎日お風呂は沸かしていますが、利用者の体力や体調を配慮し、基本的に一日置きの入浴としています。重度の方は、2人体制で対応しています。拒否のある方には、時間を空けて声をかけたり、職員を変えたりしながら、入浴に繋がるよう支援しています。ゆず湯等で季節感も感じてもらえるようにしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の過ごし方についてはおおまかな流れだけ決めており、それにとらわれず、一人一人のペースで過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人一人が服薬の目的、副作用等を理解し、十分に注意をして支援している。（職員会議に於いて適時服薬の確認を行っている）現在薬の変更についての申し送りは、記録、職員連絡ノート、口頭伝達と3段構えで行っており、薬変更後の利用者への対応は十分に注意をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人一人の力を活かせる様、また日常を楽しく、快適に過ごせるように、一人一人のそれまでの生活歴等を踏まえてアプローチをするよう心掛けている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が良い時は、戸外への散歩、または敷地周辺での外気浴を行っている。また季節ごとに車を使用して外出を行っている。利用者によっては馴染みの場所に出かけることもある。町内のお祭り等に参加をする場合は、状況により、地域の方に協力して頂いている。	気候が良い時には、近隣の戸外への散歩、敷地周辺での外気浴を行っています。季節ごとの桜・紫陽花・ポピー等の花見には車で出掛けています。家族と一緒に外出し、外食をして帰る方もいます。町内会館での催し物や行事参加の時には、地域の方に協力していただいています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者個人のお金の保持については、本人・家族の希望に沿って支援するよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が親族に手紙を書く等の支援を行っている。電話に関しては利用者より希望があった場合はかけて頂いている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月利用者とその月々の季節感を出せる様な掲示物を作成している。幼稚な雰囲気にならぬよう、開所以来ホーム内には過剰な掲示物、飾り等はしないようにしている。（施設感を出さず、あくまでも家庭的な雰囲気を出すように）また、日常の掃除、換気、温度・湿度調整を徹底することで、ホーム内を快適な空間にするよう心掛けている。	リビングには季節の花を飾り、利用者と共に作成した貼り絵のカレンダーを貼る等、季節感が感じられるよう配慮しています。掃除は利用者と一緒にいき、加湿空気清浄機や濡れタオル等で空気や湿度にも配慮しています。外や玄関周りの掃除をしてくれる利用者もいます。		今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で、それぞれお気に入りの場がある。気が合う利用者同士で、快適に過ごせる様な空間作りを心掛けている。利用者がリビングではなく、居室で過ごしたいというような時は自由に過ごして頂くよう、声かけをしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家具、写真など馴染みの物を持参して頂き、出来るだけ自宅にいた時と同じ様な空間で過ごして頂くような働きかけをしている。	居室にはエアコン・照明器具が設置されています。早く慣れるためにも、自宅のようにして欲しいと、本人や家族と相談しながら、箆笥や机・椅子・縫いぐるみ等使い慣れた物や、好みの物を持ち込んで頂き、居心地よく過ごせるよう配慮しています。		今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は、利用者が安全かつ、出来るだけ自立した生活が送れるよう、また認知症の緩和にもなるような構造にしている。			

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム ちゃばしら

作成日

平成28年 12月12日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	火災、地震等の災害対策以外に、ここ数年の異常気象（猛暑、超大型台風、ゲリラ豪雨、大雪等）に伴い多発している規格外の自然災害対策。	いかなる災害時であっても、全職員が適格に行動を起こせるようになること。災害に対する意識向上。	災害時マニュアルの見直し。市役所、同業者ネットワーク等より各自然災害対策についての情報収集をした後、ホーム内で情報共有する。	現在進行中～平成28年度中
2	13	人材育成 職員の働く意欲の向上	職員一人一人が向上心を持って職務にあたるよう、職場環境、規定を整備する。	職場環境整備の為の助成金を積極的に活用する。キャリアアップの為の規定の整備。	現在進行中～平成28年度中
3	19	利用者の急変時、体調不良時等に関して、家族と共に本人を支援する。	利用者の急変時、体調不良時等は、その状況に応じて、家族に積極的に支援を依頼する。	日頃から家族と、利用者の状態等について連絡を密にする等、連携体制を確立する。	現在進行中～平成28年度中

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。